

◆東松島市の人口

被災前 42,903名 (H22.10.1)
被災後 39,800名 (H26.1.1)

◆被災状況

平成25年 9月 1日現在

○人的被害

死者 1,125名
行方不明者 26名

○物的被害

浸水範囲面積 37 km²
全壊 5,507棟
半壊 5,560棟
一部破損 2,427棟

出典：消防庁災害対策本部 平成25年9月9日発表
「東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)について(第148報)」より

位置図



被災状況(東松島市)平成23年5月25日撮影
出典:国土地理院HP

宮城県東松島市 -野蒜地区、野蒜北部丘陵地区-

◆復興まちづくりの考え方

○被災地近隣の丘陵地への眺望景観に配慮した高台移転

◆調査選定理由

- 近接地区における一体的な復興まちづくり(防災集団移転促進事業と土地区画整理事業)
- CM(CMR)方式を活用した復興まちづくり



平成25年12月11日撮影

東松島市復興整備計画(第11回目公表) 土地利用構想図



資料:東松島市復興整備計画(第11回目公表)

◆復興まちづくり推進のポイント（初動対応）

- 復興まちづくりは若手職員の議論から
震災直後、各部署（建設、下水道、企画、財政、教育委員会など）の若手職員が集まり、復興まちづくりへの第一歩となる議論を開始
- 高台移転の基本構想を早い段階で示す
高台移転が避けられない状況のもと、若手職員が中心となり被災地近隣の丘陵地への移転の基本構想を早い段階で住民に示す



野蒜地区から野蒜北部丘陵地区を臨む

平成25年12月11日 撮影

◆復興まちづくり推進のポイント（計画・事業段階）

- 防災集団移転促進事業の一本化
大規模な高台開発では事業完成までに時間が掛かり、住民の移転地の意向が変わることが考えられ、かつ、土地の買収面積が大きく戸あたり買収面積が基準内で収まらないことを踏まえ、土地区画整理事業の造成地を防災集団移転促進事業で買収可能な手法として市全域を一本化

3

◆復興まちづくり推進のポイント（計画・事業段階）

- UR都市機構との協定とCM（CMR）方式の活用
大規模造成地の復興を円滑に進めるため、体制や人員確保をするうえで、UR都市機構と協定しCMRを活用
- 大規模造成地における土砂運搬のスピード化
効率的に土砂運搬を行うため、ベルトコンベアを設置しスピード化を図る
- 眺望景観に配慮した高台造成
松島四大観からの眺望景観に配慮し、造成のみならずJR東日本とも鉄道線形などの事業調整を行い、造成地が山に隠れる造成を実施



搬土用のベルトコンベア(野蒜駅前より撮影)

平成25年12月11日 撮影

4

◆復興まちづくり推進のポイント（総括）

○若手職員の横断的な内部調整と基本構想

○大規模事業の迅速化を図る手法（土砂運搬、事業手続き）

○眺望景観に配慮した高台造成計画の推進